

「社会人基礎力」の育成を目的として 地域貢献ボランティア団体と協働で取り組む教育プログラムの試み

The trial of the educational program which tackles by a local contribution
volunteer organization and collaboration for the purpose of training of
"basic ability to work in society"

川田 博美^{*1}・稲吉由味子^{*2}・千葉みどり^{*3}

Hiromi KAWADA^{*1}

Yumiko INAYOSHI^{*2}

Midori CHIBA^{*3}

*1 名古屋女子大学短期大学部

*1 College of Nagoya Women's University

*2 愛知工科大学自動車短期大学

*2 Aichi University of Technology Automotive Junior College

*3 地域貢献ボランティア協会

*3 Volunteer Association of Regional Contribution

Email: kawada@nagoya-wu.ac.jp^{*1}

あらまし：情報系短大生を対象に、最新のIT活用能力を身に付け、職場や地域で即戦力となるための徹底した「実践的情報技術教育」と、IT機器を人と人とのコミュニケーションに活用する能力や自信を養う、体験型「人間性・社会性共育」の2つの「きょういく」プログラムを軸とした「ハートライブ・プロジェクト（ITを仲立ちとした人と人とのコミュニケーションのためのプログラム）」を本格的に展開している。その一環として、教科『バーチャル・カンパニー演習』（入門・基礎・実践・応用）をカリキュラムに設置し、1年から2年までの4セメスターを利用して『ハートライブ・プログラム』の1つとして提供している。この教科では、本専攻と他大学や地域団体との『協働型サービスラーニングの実現』を目標としており、地域貢献のためのイベントの運営と実施をその教科の内容として取り組んできた。2011年度からは、その一環として、地域団体と連携して学生を地域貢献ボランティアとして育成することを目指したセミナーなどを実施して、カリキュラム外でボランティア活動に関する啓発を実験的に進めている。「地域貢献ボランティア育成」に「社会人基礎力育成」を合わせたセミナーと実際の町おこしイベントへの参加を含めた内容で展開を始めた「地域貢献ボランティア（社会人基礎力）育成プログラム」について、その内容を報告する。

キーワード：情報教育，短大教育，協働型サービスラーニング，地域貢献ボランティア育成，社会人基礎力育成

1. はじめに

中央教育審議会の「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」の答申によると、奉仕活動・体験活動を推進する意義として、「①社会人に移行する時期に、地域や社会の構成員としての自覚や良き市民としての自覚を、実社会における経験を通して確認することができる。②青年期の比較的自由でまとまった時間を活用して、例えば、長期間の奉仕活動等に取り組んだり、職業経験を積んで再度大学等に入り直したりなど、実体験によって現実社会の課題に触れ、視野を広げ、今後の自分の生き方を切り開く力を身に付けることができる。」と指摘し、さらに、「特に学生にとっては、何を目標として学ぶかが明確になってこそ学ぶ意欲が高まり、就職を含め将来の人生設計に役立てることができる。」と、18歳以降の青年にとっての意義を付け加えている。具体的には、18歳以降の個人が行う奉仕活動等の奨励・支援策として、次の内容を提示している⁽¹⁾。

特に、短期大学などにおいては、「学生が行うボランティア活動等を積極的に奨励するため、正規の

教育活動として、ボランティア講座やサービスラーニング科目、NPOに関する専門科目等の開設やインターンシップを含め、学生の自主的なボランティア活動等の単位認定等を積極的に進めることが適当である。」とし、学生の自主的な活動を奨励・支援するため、大学ボランティアセンターの開設など学内のサポート体制の充実、セメスター制度やボランティア休学制度など、ボランティア活動を行いやすい環境の整備、学内におけるボランティア活動等の機会の提供などに取り組むことが望ましいとしている。

これまで、本専攻（名古屋女子大学短期大学部生活学科生活情報専攻）では、他大学（愛知工科大学自動車短期大学）や地域団体（地域貢献ボランティア協会）との『協働型サービスラーニングの実施』を目標として、教科「バーチャル・カンパニー演習」をカリキュラム内に設置して、地域貢献のためのイベントの運営と実施をその教科の内容として取り組んできた^{(2)~(8)}。2011年度からは、その一環として、地域団体と連携して学生を地域貢献ボランティアとして育成することを目指したセミナーなどを実

施して、カリキュラム外でボランティア活動に関する啓発を実験的に進めている。

ここでは、「地域貢献ボランティア育成」に「社会人基礎力育成」を合わせたセミナーと実際の町おこしイベントへの参加を含めた内容で展開を始めた「地域貢献ボランティア（社会人基礎力）育成プログラム」について、その内容を報告する。

2. 『社会人基礎力』育成プログラムの必要性

このプログラムは、短期大学での成果の授業で「社会人基礎力」を育むための実践的な取り組みにリンクした形で実施したものである。その目標基準の一つとして、経済産業省の「今日から始める社会人基礎力の育成と評価」を参考にしている。それによれば、社会人基礎力として、3つの能力と12の能力要素を上げている。3つの基礎能力とは、①前に踏み出す力、②考え抜く力、③チームで働く力である。また、12の能力要素は、①主体性、②働きかけ力、③実行力、④課題発見力、⑤計画力、⑥創造力、⑦発信力、⑧傾聴力、⑨柔軟性、⑩状況把握力、⑪規律性、⑫ストレスコントロール力である⁽⁹⁾。

そして、それらは能力自体として把握することは難しいとしながらも、成果に向けた行動として発揮されることで把握し易くしている。したがって、社会人基礎力を自覚したり、自己や他者を評価する場合、まずは表れた行動を事実として正確に捉えることが基本になる。この場合、能力要素の定義や発揮具合によってあらかじめ設定されたレベル評価基準などがあれば、その基準と実際にとられた行動や成果とを照らし合わせることにより、その人の各能力要素がどのレベルなのかを判断することができる。

3. 5段階で構成するセミナー

このセミナーは、「地域貢献ボランティア（社会人基礎力）育成プログラム」は、他大学（愛知工科大学自動車短期大学）や地域団体（地域貢献ボランティア協会）と共同で開発し、連携して実施するので、5段階のセミナーと実際に各地で実施される町おこしにかかわる地域貢献活動への参加実績によって構成される。

5段階のセミナーは、「地域貢献ボランティア（社会人基礎力）育成セミナー」として提供し、①「はじまりのセッション」、②「前に踏み出すセッション」、③「考え抜くセッション」、④「チームで働くセッション1」と⑤「チームで働くセッション2」（各6単元）であり、①は『コミュニケーション力』の育成、②～⑤は、「社会人基礎力」の3つの能力の育成に対応している。②～⑤のセミナーは、①を修了していることが受講資格となる。

各セミナーは、それぞれの能力を育成するためのワークショップが中心であり、各6単元の内の1単元を「ボランティア」育成のためのセミナーにあて

ている。「社会人基礎力」の育成を図りながら「地域貢献ボランティア」として活躍できる人材も育成するのである。

加えて、毎月1回各地で実際に行われている町おこしイベント（現地プログラム）への参加機会を提供し、「地域貢献ボランティア（社会人基礎力）育成セミナー」で学んだ内容を実践する。

4. おわりに

セミナーは、4月から9月までで一巡するよう計画し、その間に毎月1回の実際のイベントへの参加を通して実践力も身につけ、第2セメスターからの教科「バーチャル・カンパニー演習」におけるイベント企画と運営にリンクさせた。

第2段階から第5段階のセミナーに参加するためには、第1段階を修了していることが必要である。第1段階は、「はじまりのセッション」といい、いわゆる「コミュニケーション能力」を実践的に身につける内容である。このセミナーは、次のように2つのワークショップと1つのセミナーで構成される。

1. 『人と出会う！』（ワークショップ1）
2. 『自分の世界を広げる！』（ワークショップ2）
3. 『地域貢献ボランティア活動への取り組みと社会人基礎力』（セミナー1）

参考文献

- (1)中央教育審議会（2002）：『青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について（答申）』、2002年7月29日、文部科学省
- (2)川田博美、武岡さおり、鷲野友美、小山幸治（2005）：“短期大学における学生の運営によるバーチャル・カンパニーの試み”、教育システム情報学会30周年記念全国大会論文集
- (3)川田博美、佐藤優（2010）：“協働型サービスラーニングを目指す「バーチャル・カンパニー演習」の試み”、名古屋女子大学紀要（人文・社会編）第56号
- (4)川田博美、箕浦恵美子、佐藤優（2010）：“イベント実施により協働型サービスラーニングを目指す教科の展開”、教育システム情報学会第35回全国大会講演論文集
- (5)川田博美、箕浦恵美子（2011）：“協働型サービスラーニングの実現に向けての教育システム構築の可能性”、名古屋女子大学紀要（人文・社会編）第57号
- (6)川田博美、箕浦恵美子、佐藤優（2011）：“協働型サービスラーニングを目指す教科に求める学習効果”、教育システム情報学会第36回全国大会講演論文集
- (7)川田博美、稲吉由味子、千葉みどり（2011）：“地域貢献ボランティア活動とリンクした「社会人基礎力」を育成する教育プログラム導入の試み”、教育システム情報学会第36回全国大会講演論文集
- (8)川田博美、箕浦恵美子（2012）：“「協働型サービスラーニング」をめざす教科の「社会人基礎力」を育成する教育プログラムとしての可能性”、名古屋女子大学紀要（人文・社会編）第58号
- (9)経済産業省（2008）：『今日から始める社会人基礎力の育成と評価』、2008年6月26日、経済産業省